



三傳七
南柯夢
編前

600
B/z
100
曾



且功あるものをいふ心賞せむらん。その序あり。はるかにたよらん。當坐の
 賞法をとりてせよと仰る。あるは嫡男吉。推左。今茲十歳よりりた
 ころの鏡の被知あるべし。とて。つらつらその用意をせむらん。よ年果の
 上旬よりびる。茶亭も成就あり。いへ。順昭。是は徳妻買の折。成も
 ころ。赤根。羊六を召出。五十貫の新比を賜。山北の北。る。み
 る。女徐の村主と命せむ。びて。お六。年未の宿志を遂と。似ま小
 拜謁。丹波郡。女児あさん。を妻の姪と。稱。給。給。羊七と。も小
 おも。五條の宿所。は。秘。住。ま。し。子。馴。一。芥。を。の。は。換。る。一。御。の。成。敗。を
 管。林。の。運。送。る。と。兵。檢。す。身。の。勢。と。日。毎。よ。奈。良。一。出。仕。す。る
 後。よ。つ。と。さ。よ。さ。る。司。ら。れ。ど。の。御。う。と。威。勢。あり。この。乃。体。小。佐
 保の御人。ホ。と。つ。つ。親。も。疎。も。と。よ。う。た。身。う。り。と。て。美。ね。夫。也

する。りの。水。を。求。る。よ。水。を。ひ。き。飽。と。死。ぬ。更。は。湯。を。求。ぬ。湯。を。ひ。き。飽。と
 江。の。酒。を。あ。り。ぬ。も。人。慾。の。憤。る。た。不。あ。れ。ば。お。六。既。よ。を。足。こ。す。領。主
 の。家。臣。と。さ。る。と。つ。と。も。その。職。役。の。身。を。厭。ひ。け。り。と。道。臣。の。列。り
 入り。る。は。時。を。ひ。き。政。事。よ。う。る。り。と。と。暇。ある。日。の。親。しく。典。膳
 が。家。に。交。加。彼。人。の。乃。よ。志。を。運。て。又。の。障。子。の。隙。を。張。見。る。寒。夜
 は。爐。の。火。を。吹。夏。の。屋。裏。ある。蜘蛛。網。を。揺。排。す。火。天。と。井。を。曝。し
 數。僕。の。と。く。奔走。し。る。その。龜。小。頼。と。り。り。と。典。膳。少。く。典。膳。と。二
 人。よ。と。ひ。ひ。ける。この。典。膳。が。妻。の。名。を。教。浪。と。ひ。き。典。膳。少。く。典。膳。と。二
 九。才。女。児。園。花。四。才。よ。む。む。り。ぬ。九。人。子。を。り。つ。と。た。い。その。女。児。の。子。と
 も。及。ぶ。か。入。情。の。常。あ。れ。ぬ。典。膳。夫。婦。も。羊。六。が。女。子。お。七。が。三。輪。圖。て
 ぬ。さ。よ。いと。吟。喇。を。傳。せ。る。お。く。と。れ。か。美。香。を。向。す。お。六。既。不。便



あゝ根羊七
あゝ根羊六
あゝ根羊五
あゝ根羊四
あゝ根羊三
あゝ根羊二
あゝ根羊一

あゝ根羊七

あゝ根羊七

あゝ根羊七

あゝ根羊七

あゝ根羊六

あゝ根羊七

あゝ根羊七

の人を遣一るとすれば論を條わしたよ。回答する所の各一づれは家
がけに相違する。まづらひ讀書の入門さうなれば。このひらうらも茶
良へ遣らざらば。又あさんよも。まてともよまがひふたが子人の子
の分列あり。愛慈むほどふ。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
敬の仕へ。孝順更よ比す。論を條わの。茶止をんて。かく。敬ひ言の
叙あつとれた。まてあさんよの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
の縁一まあうん。月未のひす。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
く。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
良は睦しう。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
逆もあう。出居も諸たうて。外の童と。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
く。二つよ。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの

容姿の端正あり。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
ありと稱る。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
秋のころ。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
湯も水も咽喉より。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
夫と二人の童をえり。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
もあはえ。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
秋のころ。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
あう。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの
生の内。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの。あさんいす六夫婦をまのまの親のまの

ねとりのあす六までうらま頭桶の宗まうんとあつるの定九うみ身が語ひ
 ろれどすてよあさんて妻ののするの仔細あり。うれどもあさんちや
 十歳よも足んぬとす七もや十一歳の童るれゆくはな遠くたや
 せどいふがむやりとともあつる。それともひもどべし。おもあれ今日あすの景
 道吉日あり。目今彼ホよ益えきとす。あつるんがたの七しちも。うらまはう
 らとらゆめ。あつるんが命を延る功德是こころとす。あつるんが徳を
 傾かたむよす七よ終しまとす。あつるんよ衣被更かへさす。あつるんが枕まくらの左右よ
 對むかひひゆじ。祭まつりの碑いしよ土器の用意よういあり。耐た勉めんよ洗せん子したりとて二人が回
 よすえり。あつるんが輪りん縁えんのや身を起たしてつら子とあさんてとらんか
 らん候まはを階かとす。あつるんが又また荒あ介けとらち笑わらふ。宅たくよ似につらつら夫婦
 あり。玉たま棒ぼうの八十代はちじゅうだいも。眠ねとあつるんひて子孫しよん救きう儲ぞめめべし。言ことあり。

ゆくりあすもあつるんが過あやまりもあつるんが秋あき丹には都みやこどののつら夫おとの骨ほねを
 りく命いのちを預あづからう。あつるんがたの寛あつ家けあつるんどの過あやまり償あがんと
 て負おんたえり。養やしなひあり。あつるんよ妻めかけあつるんがす。あつるんが文ぶん書かきあり。あ
 艱い音おんの恩おん高たかれを首くびて等ら用もちよまらひめいとす七の亦また理ことわりある妻めかけと
 つみを忘わすれむ。久ひさ後ごりあり。あつるんが生涯しやうがいあつるんを人ひと捨すめあつるんが
 めいあつるんとも成長せいじやうとす。あつるんがゆめありあつるんが志こころを忘わすれむ。
 誓ちか言ことともあつるんが今いまあつるんが護まも身み囊ふくろとす。七がとと交まじりあつるんが
 離わかれぬ妹いもと夫おとの誠まことを神かみも憐あはれぬ。あつるんがあつるんがす七がす
 との名なよ弟あにあつるんが十一月七日じゅういちがつなな日の誕生たんじゆうとあつるんが志こころを忘わすれむ。
 もとの裏うらあり。あつるんが又またあつるんが志こころを忘わすれむ。二月ふたつきのあつるんが三日さんじつの
 誕生たんじゆうあり。あつるんが書かきつけらる。胎た帯たいの護まも身み囊ふくろよ納のめてあり。あつるんがす七がす



おさん
まーめ
おさん
まーめ
おさん
まーめ
おさん
まーめ
おさん
まーめ

おさん
まーめ
おさん
まーめ
おさん
まーめ
おさん
まーめ
おさん
まーめ

おさん

おさん

まーめ

是も又奇くも故ありけり女の始らるるあはれ百の掛をかくととど負女
義男の故の賢人の記しあける書えくもあつて他一人を
殺して母が遺言は時るもの不孝の子不孝の
臍をうさめくといひ咎めたるは夫婦が之の
又三才のとれり列々母ありとすべ神仏は祈念してひれよと
三味線の撥を割けり環會親子の名吉あるよオセモカを
て善俗よする序あつて外あつて人の往方さうくは定ぬ
夙願を果さるあ忠孝の道りもさうて受つたは只是の命
長くて猶せよ九十年忌の季さてもさうあはれ物を吊あつて草の原
まきりつらりうさつてかつめとあつても名残をマとむり小掩
小餘の恩愛の涙は袖ははれて項は掛さるあつてもら護身書

とらりうさつて夫のく會釈されすオセモカ土器をびんがはらり小
さつらるる九度の勸杯も今ど戴く親の思すも諸とも母の教
訓身入る涙は濁と味酒の三輪の苧環つらると婚姻の式果なり
ひて後論後一言もりのりあつてさうさうさうさうさうさうさう
昏彌陀の宝号十遍もり唱る平然として終ぬといひ殺し
あつて今更にはさうしてオセモカが愁傷つらるとオセモカは天よ叫ひ
心は倒して哀悼を紅侯空に枕を侵らるともあつて小あはれ
オセモカ六次の夜は妻の送葬秋のどろ曇り丹波部が一
あつてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
目をあつてね。

あつて坂の侍人

とらふよ。その才の長ふる。唐の余良の藩中よ。二入とある。うも。彼
が又す。六の新。あ。と。五。徐。一村の吏。あ。れ。が。女。児。を。遣。嫁。と。つ。ら。あ。
あ。う。ね。ど。か。る。筋。の。期。よ。な。び。と。も。わ。く。も。あ。り。あ。ん。人。の。お。か。さ。く。て。お。か。さ。い。
見。あ。れ。が。う。づ。う。羊。六。は。情。由。と。さ。く。と。さ。く。彼。が。回。答。を。け。や。と。あ。り。あ。り。
身。が。こ。う。の。う。ま。や。と。同。よ。彼。浪。と。さ。く。一。思。て。お。ま。せ。の。う。づ。う。あ。り。
さ。あ。り。の。う。づ。う。小。あ。う。ね。と。近。属。人。の。の。を。は。ま。は。る。よ。お。ま。が。妻。せ。よ。あ。り。の。
それ。が。好。の。女。児。と。う。づ。う。を。養。育。入。後。の。う。づ。う。よ。妻。あ。の。と。ん。と。と。假。小。娘。
姻。の。孟。と。う。づ。う。海。と。う。づ。う。と。と。の。言。言。ま。て。作。ら。う。の。相。話。あ。り。と。も。
う。ひ。う。づ。う。ん。う。や。彼。人。の。牙。が。緑。高。く。威。権。あ。り。美。談。と。異。強。あ。り。美。
引。あ。り。と。も。初。死。あ。り。の。ひ。名。つ。け。妹。脊。骨。の。中。を。引。引。登。て。園。を。遣。嫁。
ん。の。識。を。惹。の。媒。あ。り。あ。り。う。づ。う。う。づ。う。の。う。づ。う。と。回。答。す。れ。ば。異。強。

びて吟咲ひす。七。あ。は。総。角。と。あ。り。智。姻。を。と。り。締。づ。と。う。づ。う。の。
謂。う。と。う。づ。う。れ。う。あ。れ。南。の。う。づ。う。さ。く。と。同。と。と。の。あ。り。也。若。黨。あ。り。也。
外。面。より。障。子。を。細。す。う。押。開。け。て。赤。根。氏。の。語。未。あ。つ。と。告。る。と。典。
唐。も。あ。り。と。う。づ。う。れ。う。う。づ。う。の。若。黨。の。障。子。を。舊。の。う。づ。う。は。て。退。出。
敷。浪。も。次。の。向。よ。り。の。浩。妙。よ。咳。ニ。ツ。四。ツ。と。羊。の。青。院。の。様。が。あ。り。ひ。
小。へ。り。来。う。と。その。安。否。を。訊。問。と。う。づ。う。の。う。づ。う。の。木。の。お。か。さ。く。と。守。を。
さ。う。じ。と。師。を。う。づ。う。も。却。り。寒。け。し。を。め。さ。く。う。づ。う。某。毛。を。引。進。ら。
す。べ。と。う。づ。う。の。う。づ。う。携。り。来。る。緞。色。衣。う。づ。う。穿。た。う。づ。う。あ。り。の。を。え。れ。
鴨。一。番。を。青。の。目。籠。よ。の。れ。う。う。典。儀。の。志。の。お。か。さ。く。と。典。儀。
え。ら。う。く。爐。の。ほ。ら。り。よ。招。た。て。四。表。八。表。の。語。の。序。よ。羊。七。が。吟。剛。を。編。
と。う。づ。う。の。う。づ。う。久。後。の。女。児。園。を。す。と。し。妻。あ。の。と。ん。と。と。う。づ。う。の。う。づ。う。



赤根半六



祖元

祖元
熊鷹膏

笠松平三奈良
膏

笠松平三

笠松平三

三つとて。と時。くめのはす。早蘭。引。便。らん。そ
の。死。の。故。障。小。うりて。蟻。松。氏。の。蟻。縁。い。つ。う。の。と。あ。り。か。親
こ。い。つ。あ。り。め。めん。も。量。が。い。今。より。と。も。り。い。は。い
あ。さん。を。追。ひ。夫。は。後。の。患。を。免。ま。う。と。い。つ。よ。は。い。定。め。て。い。か。ど
い。漏。り。小。易。と。き。か。く。く。子。を。動。さ。げ。く。つ。その。便。宜。を
定。規。ぬ。こ。小。亦。直。曾。奈。良。の。大。佛。の。ほ。ろ。小。三。松。平。三。と。い。の。高。入。あり。け
つ。この。平。三。原。浪。速。人。て。猿。登。居。の。能。優。を。興。行。し。伊。勢。の。古。市。泉。列
坂。尾。長。の。年。真。知。美。濃。の。稻。葉。山。の。周。防。の。山。口。長。門。の。下。関。ま。て
都。會。敏。系。花。の。比。の。到。ら。ら。曲。も。多。り。か。去。年。の。十。月。五。七。八。の。能。優。を。お。と
西。國。赴。く。ね。も。難。風。の。船。を。覆。さ。れ。能。優。ホ。ま。ま。大。魚。の。腹。り
サ。サ。サ。サ。その。身。の。辛。い。と。九。柴。船。は。助。来。ら。れ。奇。く。も。落。残。れ。ど。も。

遺。ら。ぬ。り。の。行。本。路。銀。ま。て。忍。比。生。活。の。本。法。を。う。ま。い。い。つ。小。と。も。ん。と。
あ。い。ふ。か。く。あ。く。奈。良。と。く。多。歸。子。川。上。の。南。小。子。け。猿。宿。を。見。ぬ。同。
毎。々。大。仏。の。ほ。ろ。小。ま。あ。き。布。き。う。鏝。電。戦。の。膏。茶。を。粥。南。ぐ。の。打。掛
い。つ。と。あ。れ。が。前。ま。首。尾。具。足。と。る。熊。の。皮。を。置。て。熊。膏。茶。と。う。三。個。の
文。字。を。筆。墨。し。う。紙。の。懺。を。あ。ま。漆。の。政。巾。を。敷。て。丹。田。山
木。綿。の。古。布。子。小。ん。ら。う。の。細。を。を。い。て。あ。の。貝。い。れ。我。の。紙。小。冊。
る。膏。茶。を。処。じ。た。ま。ご。う。る。く。あ。ぬ。鳥。獸。の。声。音。を。似。て。く。従。来。の。元
弱。を。集。合。し。る。く。あ。ぬ。彼。を。口。順。て。熊。の。平。三。章。と。を。稱。う。折。り。の。あ。り
赤。根。羊。六。高。天。神。の。ほ。ろ。う。う。所。用。あり。て。大。佛。の。門。前。を。う。ま。い。
三。の。と。暖。気。ある。日。南。方。よ。せ。を。ト。彼。此。人。よ。對。ひ。く。高。中。う。より。せ。い。
鏝。戦。の。ま。の。野。あ。れ。と。僕。が。製。表。す。と。ころ。い。ん。あ。い。と。熊。の。脂。よ。家。の。

の茶種を煉りて衣服に用ひたり。又痒癩を治すに用ひたり。一切の
 根を煮てその功神の由り。是則周の文王の夢よんひて。あ
 け脂を用ひ。三國の名醫。華陀が製し。しを。得たり人の式
 娥の泣き。月の中よき。宋人が川よき。布衣は。通じし
 るひ。彼人よ授けし。兵客が。法を。百金よ買ふ。軍。勝る。

妙あり。僕弱り。と。鶴夫あり。日山中あり。異人あり。この
 方を授けし。世の助とも。此度人の薦あり。南都あり。

賣る。の。膏茶一具を買ふ。鳥獸の声を。

昔より鹿笛。鳥の笛。音の。

似たり。鳥の音。

羊鬪の音。

鴉の犬の鳴。熊の鳴。鹿の鳴。又鳥の鳴。

家鴨の鳴。

犬の鳴。

鳥の鳴。

羊鬪の音。

鹿の鳴。

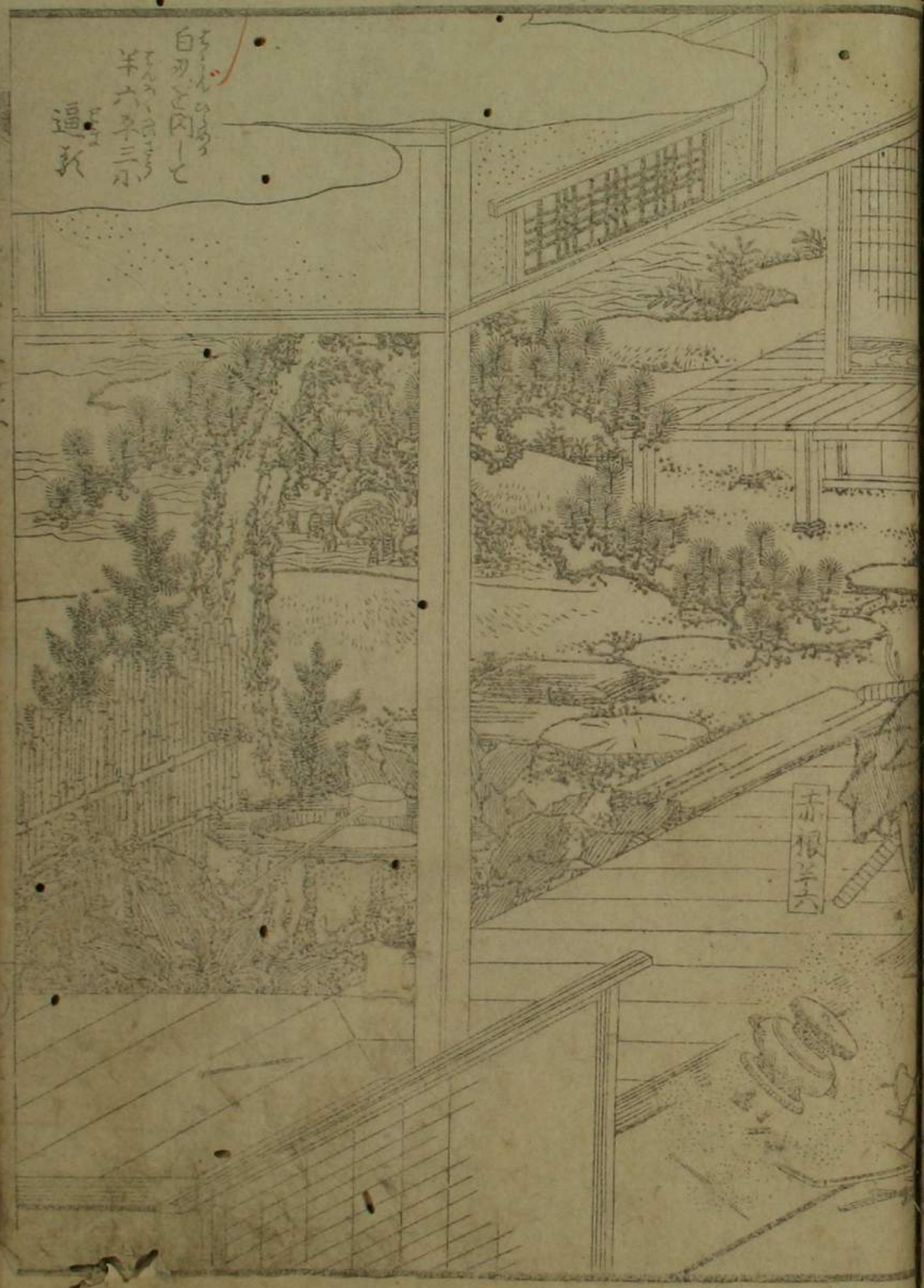
鳥の鳴。

羊鬪の音。

鹿の鳴。

鳥の鳴。

羊鬪の音。



白刃の閃く
羊六の三小
過我

羊六



笠立松三

南木夢卷三

を動してさうさうれいさと安うね。伏念とよと罵らる。かたがた
 とするを銚子をりらう柱を酒をさぼれて散乱する。身
 無命の溜ろりか尖丁と受とめて呵々と冷笑ひ。今惜をさして
 与とね。助くるさうた命あが後の禍も患うよ足らぬ。世に物をめり
 怒を力とらうたよ。あそめぬくと反つ。騒ね男もさうひまやせりり
 天晴と煉とる晴の遠つとぶその金を納る。後事審小相詰へ
 一とく一とくをさうさう三金をとらう。空中の擲財は絆されぬ。さ
 のつみの破るよるひて物の用よらう。徒とどひあふ。従金とら
 のらんとぶらもらぬ人よ東道とて羊日の驛を踏もらう。その鞍
 をさむの稱あまの行よれ心さうらう。やんせんと話へ。さうさ
 感激し。さうさ金を拾ひ集赤銅納子よ銀もる。秘宝は女の手
 紋つらう割掃杖を鐔の洞より抜出し。扇を舞死とさすも小のさ
 一載せ。これ全く財をり。其詩を誘ふよあらど。その二品は當中よ
 寸志を表するのさう。さうこれを納め。事成れらぬ。財ひをさす
 と。町寧やすし。さう。金と掃杖をとらう。懐は抉らう。
 お六やさう。妻傭く。額を合へ耳をさうらう。つ。同話教刻よる。ひ
 遠よ女の童をひき。酒を節殺を添さう。更よ四五杯をひき。さ
 酒店を走り出さう。東西よ列れらう。この日。のさう。さうらう。ひ
 ち。秘よ女の童もひさう。たよ紛さう。彼二人。密談をひき。さ
 する。さう。

大柏の権勢

さうさ。次の日。編後が百負日の速夜とさう。さう。さう。

4. V

4. V

師の経を誦す。又親の友を招きて招けり。物合... 帰るよりこれより... 稗りれり。一度も母の墓を... 結願の日あるよ。... 堂は香りのをえん。... 轎は二人の童を乗せ。... 寺へを詣り。... 時をらし。... 隙もあらず。...

Handwritten characters at the bottom right of the page.

二人の童の童の童の童。歩より... 豊田の山本を... 運びも殊... 乾いた枯尾花の... 熊。忽ちと跳... 山を走てゆく。... けされと左右... ぐま七畜... ぬやよ孩... へぬらぬら... 着くあさん... 登りて... 鷹を刺...

Handwritten characters at the bottom left of the page.



岩屋谷の
東よ
おんて荒熊よ
とらる



赤根羊六

羊七

山崎

其野放ちて回答のめり。ゆり 追んとするをまらむ。袖を放
ちど 汝雅らんども 流るよも 児あり 武士の家は 育りの 兼ちりて
とありけれ。ちつむも その身のかん 量らどいと。元大の身は 使るべ
せよ。野猪武者とて 笑ふは。やむの 勇くとも。一歳の 小腕は
そ。彼荒猿は 鬼向ん 薪を 負くは。近づた 石を 抱た 淵は 隘むと
せし。もまほ 危し。あらんが。の 惜めども。いかに けりとも。命を
負さ。父の 哀傷の。を。わ。か。て。ある。め。を。何。れ。も。命
運の 係る。ところ。と。お。ひ。諦め。か。の。ま。は。ま。め。り。を。信。夫。ホ。は。巻。備
とて。あ。ん。の。鮮。言。を。復。ど。べ。り。あ。り。れ。と。も。畠。ん。や。親。の。言。を。用。ざる。も。
あ。る。不。老。なり。と。り。あ。り。の。の。煙。は。迫。られ。ま。せ。七。の。眼。中。小。快
と。含。ま。山。を。向。上。く。嘆。息。し。さ。ひ。ま。く。と。ひ。ま。く。う。り。り。り。と。亦。根。生

六。ご。ご。子。を。お。く。五。條。へ。ま。め。り。その。夜。の中。は。令。あ。り。と。鞍。の。鴉。上。を
催。し。汝。の。日。の。豊。田。若。屋。谷。の。山。へ。巻。備。を。と。り。よ。え。未。だ。の。処。の。高。峯
よ。も。あ。ら。ね。ば。難。あ。ら。ぬ。出。あ。ら。く。も。終。は。本。意。遂。げ。て。こ。ね。せ。り。又
ま。ら。ぶ。七。日。あ。ま。り。猶。ら。し。れ。ど。終。は。本。意。遂。げ。て。こ。ね。せ。り。又
あ。ん。が。な。は。然。を。殺。し。ま。し。ぬ。を。雪。ぐ。る。も。せ。と。遺。憾。と。ひ。く。只。官。彼
か。不。意。を。悔。え。の。日。を。亡。日。と。定。め。り。母。の。後。牌。と。も。も。田。交。番。夜。を
も。向。き。を。舟。の。教。か。と。り。後。よ。父。の。守。六。太。は。練。る。稚。児。め。の。ま。の。似。り。あ。り
も。お。こ。い。念。仏。三。昧。り。み。や。の。小。憐。と。も。死。し。る。め。の。な。ら。ぬ。あ。り
む。勢。と。ひ。え。な。ぬ。と。り。の。守。七。の。父。の。仰。は。傳。ら。ん。み。を。あ。せ。れ。り。
後。は。あ。の。び。く。は。看。經。し。一。日。を。あ。り。ぬ。を。と。り。し。を。し。
あ。ん。の。日。豊。田。の。山。本。よ。し。荒。猿。は。含。ま。られ。山。は。入。る。の。十。に。



おきん
三平
石を三勝と
更む

笠屋三勝

必至松平二

江戸
本
巻
三

情なき人のへる頻に稱讃しきその年を却夏も存まじりといふ
さる程は千三つあさんか二八のまのころより彼をなむとよとて
家号を冒らし世に勝るといふまじく。五屋三勝と名づけ。洛東魁
園の社頭より干す。女樂を自初ちりて。又物の老弱雲のぞく集雲の
くまのこの繁昌昔貞和五年の六月は足利尊氏卿四條河原に校敷
を構う。田樂をえんころのせりもわくやとあはえく。穀とてとるに三勝
か年のもよ。鄙の人を招けりてその名高く。牛打童も口噴
く。それをえんころのい人も蔑も。我も耻らうく。ひりると。こ
勝の世の人よ面をえんころのいとは。あはれと。父母は都が徳
終は。ちうわくも。彼三味線の因果よて。今。母よあはれと。かとも。ありりやと
割符の撥も。つづつ。母よあはれと。かとも。ありりやと

えん物の老女よ。晴を着せと。とれりと。あはれ人もあ。加梅大和よ。こ
ト。と。夫と定て。せ。七。が。つ。ま。り。じ。く。華。洛。よ。り。あ。は。れ。も。ま。ま。年
長稚白う。せ。ん。忘。ま。あ。らん。が。名。告。あ。あ。ら。ま。り。と。す。せ。が。家。の
紋。る。柏。の。葉。よ。大。の。字。を。年。の。衣。裳。よ。縫。り。り。世。の人。定。し。陣。居
て。大。柏。と。せ。び。り。より。後。世。年。く。の。名。目。と。なり。幸。稚。大。柏。の。二。流
よ。分。る。大。柏。の。る。雍。州。府。志。よ。ん。也。今。大。頭。と。稱。る。大。柏。の。訛。る。ん。か
ら。大。柏。の。打。扮。の。頭。よ。天。冠。を。戴。く。身。よ。狩。衣。を。綴。腰。よ。一。振。の。大。刀
を。佩。く。大。口。袴。を。穿。た。大。小。の。鼓。よ。あり。り。踏。り。凡。能。優。し。優。優。
田樂。カ。玉。雲。舞。連。飛。輪。脱。緒。小。桶。比。丘。彫。木。種。類。ま。し。と。い。と。も。今
の。秋。築。伎。の。名。の。却。あ。り。假。婦。は。作。り。り。勝。を。つ。ま。り
卒。三。の。昔。よ。り。ま。り。き。世。に。女。妻。ら。ら。に。は。り。ほ。と。よ。り。勝。を。つ。ま。り

